

メディカルセミナーのご案内

テーマ：『血液がんの治療の最前線』

30年前は不治の病と考えられていた造血器腫瘍も、さまざまな治療の進歩によって根治を期待できる疾患へと変貌しつつある。造血器腫瘍の治療は化学療法、造血幹細胞移植、分子標的療法、そして支持療法の4つにわけることができる。その中でも分子標的療法の進歩は、その予後の改善に大きく貢献し、慢性骨髄性白血病では分子標的療法のみで90%を超える長期生存が期待できるようになった。その他の疾患においても4つの治療法を組み合わせることによって、その予後は着実に改善している。さらに最近では、造血器腫瘍の幹細胞を標的とした治療法の開発注目されている。このレクチャーでは、造血器腫瘍の4つの治療法について説明をし、代表的な造血器腫瘍である急性白血病、慢性骨髄性白血病、非ホジキンリンパ腫、多発性骨髄腫における最新の治療法についてわかりやすく概説する。

講師紹介

慶應義塾大学医学部 血液内科教授

岡本 真一郎（おかもと しんいちろう）先生

- 1983年3月 慶應義塾大学医学部大学院(内科学)卒業(医学博士)
- 1983年4月 慶應義塾大学助手(医学部内科学)
- 1985年7月 米国 Emory大学(Division of Hematology / Oncology, Department of Medicine) Research Fellow
- 1986年7月 同大学 Clinical & Research Fellow of Hematology / Oncology
- 1988年4月 米国 Fred Hutchinson Cancer Research Center Clinical Fellow
- 1990年10月 東京大学医科学研究所病態薬理学研究部助手、同内科骨髄移植チーム Chief
- 1993年4月 慶應義塾大学専任講師(医学部内科学 血液内科)
- 2002年4月 慶應義塾大学 准教授(医学部内科学 血液内科)
- 2005年10月 慶應義塾大学病院内科(血液・リウマチ)診療科部長
- 2009年5月 慶應義塾大学 教授(医学部内科学 血液内科)
- 2009年10月 慶應義塾大学病院 副病院長 薬剤部長代行



現在に至る。公職：日本骨髄バンク理事(国際担当)・医療委員会委員、日本血液学会理事・国際交流委員会委員、日本造血幹細胞移植学会副理事長・国際委員会委員長、医療品医療機器統合機構専門委員、ICD専門委員、WMDA(World Marrow Donor Association) Clinical Working Group, Member、APBMT(Asian Blood and Marrow Transplantation Group)副理事長、日本内科学会理事など

セミナー概要

< 予約制 >

- 【テーマ】 『血液がんの治療の最前線』
- 【日時】 2012年2月29日（水）午後6時30分 開演
- 【講師】 慶應義塾大学医学部血液内科教授
岡本 真一郎（おかもと しんいちろう）先生
- 【会場】 新宿住友ビル47階（西新宿）
- 【費用】 無料ご招待

会場のご案内

～新宿住友ビル スカイルーム47階～

住所：東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル 47階

交通：JR「新宿駅」西口より徒歩8分

大江戸線「都庁前駅」A6出口 直上

丸ノ内線「西新宿駅」より徒歩3分



お申込み・お問合せはBRBメディカルサロン事務局で承ります。

TEL.03-3343-4511 FAX.03-3343-5845
(受付：月～金曜日9:30～17:30)

 BRB MEDICAL SALON
to keep your health